

第 64 回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録

日 時 令和 2 年 6 月 17 日（水）10 時 30 分 ～ 11 時 50 分

場 所 K K R ホテル東京 瑞宝の間

出席者 伊佐間委員 (TV 会議)、小出委員、郷委員、合田委員 (TV 会議)、児玉委員 (TV 会議)、
武田委員 (TV 会議)、田島委員、西島委員、長谷川委員、三木委員、山内委員、
内丸委員、岡田委員、幅委員、徳宿委員、小杉委員、山口委員、佐々木委員、
齊藤委員 (欠席者 野口委員、神谷委員)

陪席者 大田監事、北村監事、藤澤総務部長、阿部財務部長、五味田研究協力部長、
西施設部長、柴原総務課長、櫻井人事労務課長、梅崎主計課長、
幸田東海管理課長、島根決算室長、大宮決算室専門員、他

配付資料

1. 第 6 期高エネルギー加速器研究機構経営協議会名簿
2. 第 63 回経営協議会議事要録
3. 第 3 期中期目標期間の教育研究評価に係る学部・研究科等の現況調査表
及び中期目標の達成状況報告書について
- 3-1. 学部・研究科等の現況調査表 (案)
- 3-2. 中期目標の達成状況報告書 (案)
4. 令和元事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間
(平成 28～令和元事業年度)に係る業務の実績に関する報告書
5. 令和元年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
- 5-1. 令和元年度決算の概要
- 5-2. 令和元年度財務諸表等 (案)
- 5-3. 令和元年度決算報告書 (案)
- 5-4. 令和元年度事業報告書 (案)
6. 令和 3 年度概算要求事項
- 6-1. 令和 3 年度 運営費交付金 (機能強化経費) 概算要求事項等 一覧 (案)
- 6-2. 令和 3 年度概算要求 (施設関係)
7. 役員の退職手当額に関する業績勘案率について
8. 基本通則の改正について
9. URA 人事制度の見直しに係る今後の規則改正について

議事に先立ち、山内議長から開会の挨拶があった。また、飯塚委員と住吉委員が3月31日付で経営協議会委員を辞任し、新たに4月1日付で伊佐間委員と野口委員が就任した旨の報告があった。資料1の前回議事要録については、既に確認いただいているため確定版として配付している旨の説明があった。

議 事

1. 審議事項

(1) 第3期中期目標期間の教育研究評価に係る学部・研究科等の現況調査表及び中期目標の達成状況報告書について

幅委員から、資料3に基づき説明があった。会議中にいただいた意見の反映、及び報告書提出までに更に意見をいただいた場合の反映等の修正については、一任していただきたい旨の説明があり、了承された。

<主な質疑応答等>

- ・研究支援戦略推進部の産学公連携関連組織と管理局の産学連携担当係を統合した「オープンイノベーション推進部」の取組について、追記した方が良いのではないかと。→追記することとする。
- ・科学技術デジタルコンテンツの特別企画サイトについて、このアクセス数を獲得できたことは良い事例であるとともに複数の日本の科学分野をまとめたコンテンツを発信したのは初めての取組であるので、その点も強調できるのではないかと。また、このようなコンテンツは時間が経つことで価値が薄れるものではなく、例えば物材・材料研究機構では人気のあった記事をアーカイブとし常にフォローアップできるよう整理している。今後もこれらコンテンツが何時でも容易に閲覧できる方策を検討していくとよい。→強調して追記したい。また、新しい生活様式の下では、現場で広報活動を行う機会も減ると考えられるので、新しいデジタルコンテンツを作る機会がますます増えると予想している。デジタルコンテンツの閲覧しやすい形を模索していきたい。

(2) 令和元事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間（平成28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する報告書

幅委員から、資料4に基づき説明があった。なお、報告書提出までに意見があれば担当理事である幅委員に伝えることとし、今後の修正については、一任することです承された。

(3) 令和元年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

内丸委員から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

(4) 令和3年度概算要求について

内丸委員から、資料6に基づき説明があった。本件については、文部科学省からいまだ明確な方針が示されていない中で必要な予算を積みあげた金額である旨の説明があり、今後、資料の内容を基に概算要求に向けて調整を進めることが了承された。

<主な質疑応答等>

- ・ 基盤的設備等整備の「構造生物学研究センターの高度化及びリモート化」について、クライオ電子顕微鏡は電子銃の加速電圧が300kV規格の機器の導入を考えているのか。
また、それは国産品それとも海外製品か。300kVのクライオ電子顕微鏡を有効活用できるか。
→300kVの規格の海外製品を考えている。物構研で現在導入している200kVのクライオ電子顕微鏡の検出器を改修し分析の速度を高めることで、300kVのクライオ電子顕微鏡と組み合わせて無駄のないフローで分析が可能と考えている。
- ・ (上記の) リモート化は、直接外部からリモートコントロールできるシステムを構築するのか。
→直接外部からコントロールするリモート化ではなく、テレビ会議で内部職員が機器を操作し、外部ユーザーと議論しながら進めることを想定している。
- ・ BNCTには期待を寄せているが、KEKの取組はいかがか。
→本件は、筑波大学と共同で進めているが、KEKとしても陽子線治療、重粒子線治療に次ぐインパクトのある研究と位置付けており、十分にフォローしていきたい。
- ・ 「共同利用研究者宿泊施設1号棟改修」について、風呂・トイレ共用のものを改修することだが、大学等でいまだ風呂やトイレが共用の宿泊施設はほぼ無い。利用者が敬遠する一因にもなるので、是非、改修を進めていただきたい。
→全ての宿泊施設が共用ではないが、こちらについては可能な限り早急な対応に取り組んでいきたい。

(5) 役員の退職手当額に関する業績勘案率について

山内議長から、資料7に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

2. 報告事項

(1) 基本通則の改正について

内丸委員から、資料8に基づき報告があった。

(2) URA制度の見直しに係る今後の規則改正について

岡田委員から、資料9に基づき報告があり、本件はまだ結論に至っていない検討状況の報告であるが、機構内で了承された場合には、次回の本会議の開催前に、規則改正の書面審議を諮る必要があるため、予め説明している旨の報告があった。

<主な質疑応答等>

- URA のキャリアパスは、非常に分かりやすい機関とそうでない機関で分かれている。他大学の好事例の情報を捉え、URA に分かりやすい制度設計をしていただきたい。
→好事例の大学を参考にして、議論を進めていきたい。
- URA が転職しながらキャリアアップができる、大学間で引き合いになるような人材を発掘できる仕組みがあると良い。URA は、組織運営において研究者には無い企業等の経験による別の観点での活躍が期待される職種であり、組織にはそのような人材を活用する仕組み、また、雇用する際にも相応の目利きが必要であること念頭に置き進めていただきたい。

3. その他

- (1) 山内委員から、コロナ禍における KEK の対応について、以下のとおり報告があった。
 - KEK としては緊急事態宣言や特定警戒都道府県に基づく国、茨城県からの要請を踏まえながら、可能な限り KEK の機能が維持できるように対応してきた。
 - 職員の勤務は、在宅勤務、子連れ出勤、時差出勤に関する措置を実施し、在宅勤務については、多い時で約7割の職員が実施した。現在は、出勤制限（在宅勤務）を緩和し、在宅勤務者は2割以下程度となっている。
 - 現在、業務実施に当たっては、一般的な感染リスクを避ける措置を講じている。
 - 研究施設については、J-PARC は一時停止期間があったが、現在は運転を再開している。SuperKEKB/Belle II は、緊急事態宣言下においても少人数で運転を継続し、現在も引き続き運転している。放射光実験施設（PF）は夏に2週間運転し、秋以降に本格的な運転を行う予定である。
 - これまでの状況を踏まえ、7月14日（火）に今後の KEK における新しい研究様式についてシンポジウムを開催する予定である。
- (2) 武田委員から、本日の審議事項である「現況調査票及び達成状況報告書」、「研究業績調査票」については、国大協で簡素化の議論が行われており、KEK にもこの議論に参加していただきたい旨の発言があった。

4. 閉会

山内議長から、次回の経営協議会は令和3年1月13日（水）に開催することの報告があり、閉会した。

(以上)